<一般研究>

ベビースイミング参加児の発育発達に関する縦断的研究（第２報）

愛育会保健指導部来部児の追跡調査

研究第２部　斎藤幸子・宮崎　叶
共同研究者　曽根秀子（総合母子保健センター保健指導部）

Ⅰ　はじめに

愛育会総合母子保健センター保健指導部に来部する児のなかで，ベビースイミング（以下Ｂ．Ｓ.と略）に通う児が増えはじめたのは昭和56年頃であった。この頃からＢ．Ｓ.経験児を登録しているが，その数が155名となった。(昭和59年３月現在)これらの児はその後どの程度継続しているのであろうか。

Ｂ．Ｓ.を行う意義の一つに「幼児水泳の前段階としての水慣れ」ということが言われる。[1] すなわち，Ｂ．Ｓ．はスイミングと言っても水に浮いたり，潜ったりして，水に親しむのが主であり，そうしておけば次の段階の幼児水泳にうまく移行できるというものである。さてそのためには始めた以上続けなくては意味がなくなる。

本報告は上記155名について追跡調査を行い，継続している群，中止した群それぞれについて分析し，Ｂ．Ｓ．を続けていく上での問題点を明らかにする。

また，継続している群については第１報[2] に続き発達状況を調べたので報告する。

Ⅱ　調査内容および方法

対象は愛育会保健指導部に来部する児のうち，Ｂ．Ｓ．を開始したことの分かっている児155名で，昭和53年１月から昭和58年４月生まれの児である。調査は次の２通りを行った。

１　対象児の母親に対するアンケート調査

表１の内容でＢ．Ｓ.の継続状況に付いて調べた。葉書の郵送によるアンケートで，葉書表面には「自由記載の意見欄」を設けた。調査時期は昭和59年４月であった。

２　１の結果Ｂ．Ｓ.を継続していることの分かった児については，保健指導カルテの記録により発達状況の調査を行った。この対象はＢ．Ｓ.を始めてから６カ月以上経過している児である。

表１

＊ベビースイミングに関するアンケート調査＊

お子さんのお名まえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

Ｑ１　開始時期は？　昭和＿年＿月から
（＿歳＿カ月の時から）

Ｑ２　練習頻度は？　一週間に＿回

Ｑ３　現在も続けていらっしゃいますか？
(1)　続けている
(2)　やめた→いつですか？＿歳＿カ月時
やめた理由＿＿＿＿＿＿＿＿

Ｑ４　通っている（いた）スイミングクラブ名
始めた所　＿＿＿＿＿＿＿＿
変更＿年＿月～＿＿＿＿＿＿＿＿
変更＿年＿月～＿＿＿＿＿＿＿＿

Ｑ4′　スイミングクラブを変更した場合その理由？
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Ｑ５　お母さまは妊婦水泳をなさいましたか？
(1)　はい　(2)　いいえ

＊　ご協力ありがとうございました

＊　ベビースイミングに関するご意見・ご感想がございましたら，表の欄にお書きください。

Ⅲ　調査結果

１　アンケート調査結果

１）回収率

アンケート郵送数155のうち回収できた有効回答数は73（回収率47.1％）であった。開始時期が２歳以降の児

は対象外とした。

2）調査時の年齢別内訳

対象児の年齢別内訳は，0歳3名，1歳32名，2歳15名，3歳10名，4歳～7歳13名であった。

3）B.S.開始時期

表2に開始時期を示した。最も早いものは生後3カ月で始めていた。1歳未満で始めたものは58例で，6カ月からが最も多い。これは多くのスイミングクラブが6カ月児から受け入れをしているためである。

表2　B.S.開始時月齢別人数

	N	小　計
0歳3カ月	1	58
5カ月	1	
6カ月	24	
7カ月	9	
8カ月	5	
9カ月	4	
10カ月	8	
11カ月	6	
1歳0カ月	1	15
1カ月	1	
2カ月	4	
3カ月	0	
4カ月	0	
5カ月	2	
6カ月	2	
7カ月	1	
8カ月	3	
9カ月	1	
計	73	

4）水泳の継続状況

調査時点まで水泳を続けていた児は59例（80.8％），中止していた児は14例（19.2％）であった。

5）中止群の理由

(1) 第2子妊娠のため …… 6
(2) 時間的都合が悪くなった（幼稚園など）…… 3
(3) 転居のため …… 1
(4) プールが不潔なため …… 1
(5) 児がいやがる …… 1
(6) 行く度に下痢，風邪 …… 1
(7) 無回答 …… 1

（計　14）

以上のように乳幼児の場合，母親その他周囲の都合で水泳が続けられなくなることが多いと言えよう。圧倒的に多いのは(1)の第2子妊娠であるが，以前我々の調査「母親に対する意識調査」[3]でもB.S.を続けていく上での心配ごとの第1番めにこの第2子を妊娠した場合の対処法についてが挙げられていたが，やはり「やめざるを得ない状況」があることが分かった。

6）スイミングクラブを途中で変更した例は17例（23.3％）あり，その理由は以下の通りである。

(1) 母親が一緒に入らなくて済むように …… 5
(2) 転居のため …… 4
(3) 家に近い方にした …… 3
(4) 指導法に不満があった …… 3
(5) 設備に不満があった …… 2
(6) 幼稚園の関係で …… 2
(7) その他 …… 2

（重複回答あり　計21）

(1)は我が国においてB.S.を行う目的の一つにされている「母子の触れ合いにより，よりよい母子関係を目指す」という点とは相反しているが，母親側の事情によりやむを得ない場合も多い。すなわち「母親が一緒に入らなくて済むように」とした5例のうち3例は第2子を妊娠（出産）したからである。B.S.を続けるためにはこのように練習方法を変えることも1つの手段と言えよう。

7）妊娠水泳の経験ありなしをB.S.の継続群，中止群とクロス集計すると表3のごとくなる。

表3　妊婦水泳の経験とB.S.の継続状況

	継続群	中止群	計
妊婦水泳の経験あり	28（47.5）	3（21.4）	31（42.5）
〃　なし	31（52.5）	11（78.6）	42（57.5）
計	59（100.0）	14（100.0）	73（100.0）

$\chi^2 = 3.14$

中止群でみると妊娠水泳経験者の割合は少なくなっているが，有為な差はない。

8）自由記載の意見，感想欄に記載のあったものは継続群で42例（71.2％），中止群では7例（50.0％）であった。内容をまとめると以下の通りである。

＜継続群　42例＞

(1) 全面的に肯定：やっていて本当によかった …13

(2) 途中悩んだが，現在は順調である ……11
(3) 肯定＋問題点（感想，母親の負担大）…… 6
(4) 指導法，設備に対する不満 …… 6
(5) 続けてはいるが，順調でない。悩んでいる … 4
(6) 児は馴染まないが，母親は満足している …… 2
<中止群　7例>
(7) 肯定：都合で再開できない …… 2
(8) 水遊びのつもりが違っていた …… 1
(9) 子供によっては適さないと思う …… 1
(10) コーチに対する意見（保母的役割必要）…… 1
(11) 更衣室が不潔 …… 1
(12) プールの塩素が心配＋更衣室の不潔 …… 1

この結果から，始めから順調な児は(1)，(3)，(7)と考えられ計21例で回答数の42.9％に当る。その他何等かの問題をかかえ，中には中止した例もあるわけである。

問題点を整理してみると次のごとく集約されるであろう。

a　児によっては向き，不向きがあるのではないか
b　母親の負担が大きい
c　現状のスイミングクラブに不満

a は確かに慣れるのに時間のかかる児と，始めからスムーズに馴染む児とあるようだが，開始時期や指導法との関連が検討されなければならない。b は「親子で楽しく」という訳にはいかず，負担に感じている母親もあるということである。c の中にはB．S．に対する誤解や見解の相違もみられる。コーチとコミュニケーションが大切である。

2　継続群の発達調査

B．S．を始めてから６カ月以上を経過している児は54例であった。第１報のスイミングクラブに於ける調査[2]に準じて発達状況を調査した。すなわち，昭和55年に日本小児保健協会が行った幼児健康度調査結果[4]と比較できるよう，これに準じた年齢区分で集計した。結果は表４に示した。我々は前回調査からプールに定期的に通うという環境が児の社会性の発達に及ぼす影響に注目しているが，特にあとおいについて言及した。

今回の結果からも「あとおいする」が12カ月～17カ月で65.4％，18カ月～23カ月で62.1％と，前掲の幼児健康度調査結果のそれぞれ90.5％，95.1％より少ない値となっていた。

Ⅳ　おわりに

B．S．を開始する児は後を断たないが，長く続けられる割合は何れくらいであろうか。というのが我々の疑問であった。結果はわりあい続いている児も多かったが，何等かの問題を感じている母親も多かった。

継続はしていても，順調でなく悩んでいる母親がある

表４　年齢別発達状況

項目	12カ月～17カ月児（26例）			18カ月～23カ月児（29例）		
	＋	±	－	＋	±	－
伝い歩き	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
ハイハイ	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
ひとり立ち	76.9	0.0	23.1	100.0	0.0	0.0
ひとり歩き	69.2	0.0	30.8	100.0	0.0	0.0
続歩	65.4	0.0	34.6	100.0	0.0	0.0
走る	38.5	0.0	61.5	93.1	0.0	6.9
両足とび	3.8	0.0	96.2	55.2	0.0	44.8
階段（登降）	84.6	3.8	11.5	93.1	0.0	6.9
カンシャク	73.1	11.5	15.4	65.5	17.2	17.2
人見知り	26.9	11.5	61.5	27.6	17.2	55.2
あとおい	65.4	3.8	30.8	62.1	10.3	27.6
発語	88.5	0.0	11.5	100.0	0.0	0.0
二語文	0.0	0.0	100.0	41.4	3.4	55.2
禁止（注１）	80.7	15.4	3.8	96.6	0.0	3.4
行動（注２）	80.7	15.4	3.8	96.6	0.0	3.4
会話	7.7	7.7	84.6	27.6	0.0	72.4

項目	24カ月～35カ月児（29例）		
	＋	±	－
ことば（注３）	93.1	0.0	6.9
二語文	79.3	20.7°	0.0
歌をうたう	79.3	20.7°	0.0
友達あり	79.3	－	20.7
よく歩く	82.8	10.3°	6.9
階段（つかまらず）	65.5	6.9°	27.6
〃（つかまって）	93.1	6.9°	0.0
三輪車をこぐ	37.9	3.4	58.6
飛び降り	65.5	0.0	34.5
外遊び	69.0	3.4	27.6
偏食あり	24.1	6.9	69.0
自分で食べる	55.2	41.4	3.4

°印は(±)でなく不明
注１：禁止されたことや，物の名がわかる。
注２：簡単な命令を理解して行動する。
注３：単語をなんでもしゃべる。

一方，慣れるまで時間がかかったが諦めなくてよかったとしている母親もある。プールに通うこと自体に負担大という意見もある。いずれにしろ，楽しみで順調に通っている親子がある反面，かなりの根気が必要な親子もあるのが現実だ。

さて順調に水に親しんでいる場合でも長く続けるための第一の難関は第２子の妊娠出産である。まず，妊娠中第１子と水に入れない場合は，コーチに預けられる練習方法のあるスイミングクラブを捜さなくてはならない。また，出産前後の一時期はどうしても休会せざるを得ない場合がほとんどであり，せっかく慣れたところで残念という声が聞かれる。第２子出産後も２人の児を連れて通うのはかなりの労力が必要となる。今回の調査対象は１～３歳児が多く，この難関を迎えていない例も多いであろうが，Ｂ．Ｓ．の将来を考える上で一つの課題であろう。

発達状況の調査結果からはＢ．Ｓ.をしたからといって，発達が早くなるという事はないと言えそうであるが，今後さらに調査例数を増やし結論づけたいとおもう。

＜文　献＞

1）母性小児生活指導センター：水と育児１ベビースイミング
2）青柳幸子，他：ベビースイミング参加児の発育発達に関する継続的研究（第１報），紀要第19集，1983
3）曽根秀子，他：ベビースイミングについて
－母親の意識調査－，紀要第17集，1981
4）昭和55年度　幼児健康度調査報告書，日本小児保健協会，昭和56年３月